

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1362 号	氏名	中鋪 卓
学位審査委員	主 査	川上 純	
	副 査	酒井 英樹	
	副 査	柳原 克紀	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、肝臓より胆汁中に分泌される細胞外小胞 (Extracellular vesicles : EVs) とそれに内包される内包microRNA を、背景肝疾患との関連を含めて解析したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>長崎大学病院で生体肝移植術を施行した21例のレシピエント(末期肝不全)と18例のドナー(正常肝)を対象とした。レシピエントとドナーの胆汁から超遠心法にてEVsを抽出し、粒子数と粒子径を解析した。EVsに内包されるmicroRNAは次世代シーケンサーとqPCRで評価し、背景肝疾患との関連について解析を実施するものであり、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、EVs濃度、粒子径に関しては、レシピエントの胆汁中EVs濃度はドナーと比較し有意に高値で、肝細胞癌合併例では有意にEVs濃度は高値であった。移植後は、術後7日、14日とEVs濃度は低下した。EVs粒子径は、肝移植前後、基礎疾患、肝細胞癌の有無でいずれも差が見られなかった。内包されるmicroRNAは発現量が多い43種類のmiRNAのうち、38種(88.4%)はレシピエント胆汁中EVsにおいて高発現で、レシピエントにおいて、miR-17, miR-92a, miR-25, miR-423, miR-451aが有意に高値であった。背景肝では、miR-17の発現がアルコール性末期肝不全症例で有意に高値であり、EVsと肝病態に関する研究として大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は肝病態を反映するEVs研究-肝微小環境の新たなバイオマーカー研究-に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと